

一般社団法人 日本生態学会 2020年度 第3回通常理事会

1. 日時：2020年12月19日（土）13:00～17:10
2. 場所：オンライン会議（zoom）
3. 出席者：
 - ・理事会構成員（20名・定足数10名以上）
（理事）湯本貴和、宮下直、永松大、三木健、黒川紘子、中川弥智子、久米篤、木村恵、内海俊介、東樹宏和、中野伸一、吉田丈人、西廣淳、近藤倫生、辻和希、鏡味麻衣子、北島薫、宮竹貴久、村岡裕由、和田直也
 - ・監事：陀安一郎、齊藤隆
 - ・オブザーバー：陶山佳久、永光輝義、小池文人、幸田良介、大塚俊之、佐々木雄大、本庄三恵
 - ・事務局：鈴木晶子
4. 議事概要：

定足数10名を超える20名の理事の出席を得て理事会が成立したことを確認した後、定款第42条に従い湯本貴和会長を議長として議事を進行した。議事録署名者は、定款第46条に則り、湯本貴和会長、齊藤隆監事、陀安一郎監事とし、議事録作成者は永松大理事が担当することとした。

報告事項

1. 事務局報告（庶務・会計）
 - ・資料1に基づいて永松専務理事より、JWEF女性技術者に贈る奨励賞への生態学会員1名の推薦・申請を行った（7月15日）こと、過去の大会において不適切な大会参加のあった会員に会長名で注意書を送付した（9月23日）こと、学会メールサーバーをGoogle Workspaceへ移行した（9月23日）こと、学会賞選考委員に推薦された学会賞・宮地賞・大島賞・奨励賞（鈴木賞）候補者が理事会メール審議にて承認された（12月7日）こと、Wiley社へ2020年英文3誌出版費および2019年・2020年冊子代金を支払った（7月21日）こと、東京化学同人より生態学入門第2版印税の入金があった（7月22日・11月25日）こと、2020年地区会活動費を前年会費収入の6%（うち50%等分配、50%会員比分配）として7地区会に支払った（8月19日）こと等、庶務15件、会計11件の報告があった。
 - ・資料1に基づいて黒川会計担当理事より2020年収支報告があり、会費収入が予算通りであったが学会誌売り上げが減っていること、論文掲載料収入があったこと、発表中止となったがESJ67大会参加費収入があったこと、ESJ67懇親会費約130万円を寄附金として扱ったこと等が報告された。
2. Ecological Research 編集委員会報告
 - ・資料2に基づいて陶山編集長よりData paper Editorの就退任、ER論文賞審査状況、出版・編集状況、投稿規定変更、特集の出版と進捗と今後の企画、受

賞記念論文プレゼンス向上に向けての提案、連携 2 誌とのすみ分けについて、久米出版担当理事よりプレプリントサーバーへの事前登録方針について報告があった。

- ・ 2020 年は特集が多く掲載されて 1119 ページと昨年よりページ数が多くなった。一方、論文受付が年間 253 報と年々減っており（中国からの投稿が 100 報ほど減）さらに続けるとページ数が足りなくなるため、特に特集投稿呼び掛けの依頼があった。

3. 日本生態学会誌編集委員会報告

- ・ 資料 3 に基づいて永光編集長より刊行状況、編集体制が新しいシステムに変更し 71 巻から体裁更新になり新しい投稿規定による校正にしていこうこと、今年受け付けた投稿は平年並みだったとの報告があった。
- ・ 71 巻から過去のバックナンバーも含めすべての記事に CCBY4.0 の再利用ライセンスが適用されるとの報告があった。

4. 保全生態学研究編集委員会報告

- ・ 資料 4 に基づいて小池編集長より刊行状況、編集状況について昨年と同じ状況であったこと、今後 CCBY4.0 の再利用ライセンスが適用されるとの報告があった。

5. 出版状況報告（科研費国際情報発信強化中間報告・EBSCO）

- ・ 久米出版担当理事より資料に基づいて 5 年計画の 3 年目である科研費国際情報発信強化について、Covid19 の影響で ER シンポが出来ず論文集めに課題があること、海外展開が滞っているためオンライン通しての活動を目指すこと、OA 化を進める必要があること、5 年計画後の 3 誌運営体制を構築する必要があること等の報告があった。
- ・ 資料 5 に基づいて EBSCO 学術論文データベースに関する説明があり、和文誌収録の契約を進めることになった。

6. 大会準備状況報告

- ・ 資料 6 に基づいて幸田大会企画委員長より ESJ68 の講演申込状況についてシンポ 17、フォーラム 11、自由集会 20、ポスター発表 708、口頭発表 224 件で例年より少なく、学生よりも一般会員の登録が少ない傾向があるとの報告があった。
- ・ 資料 6 に基づいて内海理事より企業協賛に対する学会対応について現状と申し合わせ案の提案があった。申し合わせについては 2021 年 2 月の理事会にて審議する予定。

7. 各種委員会報告

<将来計画>

- ・ 辻理事より ESJ68 にて若手と先輩研究者交流を行うこと、これまで応募のなか

った生物関係の賞に将来計画委員会が中心となって学会員の推薦を行っているとの報告があった。

<生態系管理>

- ・ 資料 7 に基づいて西廣理事より、政策・提言部会では意見論文の執筆を進めていること、キャパシティブルディング部会ではオンライン主体で行う事業を検討していくとの報告があった。

<キャリア支援>

- ・ 資料 7 に基づいて木村理事より男女共同参画連絡シンポジウムに参加したこと、来年 11 月から生態学会が学協会連絡会の理事学会になる準備をしていること、ESJ68 託児補助を実現したこと、今年夏の学校はオンラインイベントのためノベルティ提供はなくキャリア座談会に委員 2 名が参加したこと、次年度は例年通りの開催を検討していること、生態学会から推薦を受けた木村理事が 2020 年度 JWEF 女性技術者に贈る奨励賞審査委員特別賞を受賞したことの報告があった。

<自然保護>

- ・ 和田理事より屋久島保全要望書を 4 月に提出し 5/28 に環境省と林野庁から回答があり 11 月林野庁九州森林管理局による現地視察が行われたこと、岡山大会では辺野古大浦湾サンゴ礁フォーラムで紹介すること、中部地区より地区会名での要望書提出の予定があること、専門別委員の退任について報告があった。

8. 学術会議報告

- ・ 資料 8 に基づいて北島理事より 10/1 から 6 年間学術会議会員に就任したこと、生態科学分科会 21 名で行うこと、生態学会と日本学術会議共同での発信や生態学が助言できることを学術会議でサポート、シンポジウムなど行っていきたいとの報告があった。

9. 生物科学学会連合報告

- ・ 資料 9 に基づいて宮下副会長より IBO のリモート開催、代表選挙、大学院生支援の要望書提出、生物教育大学入試問題検討委員会、地球生物プロジェクト委員会、日本学術会議任命拒否に対する緊急声明提出、マスタープラン 2020 についての報告があった。

10. 自然史学会連合報告

- ・ 和田理事より自然史学会連合の総会が行われたこと、生態学会が提案した気象庁の生物規則観測縮小見直しの要望書について議論され、加盟学会へ呼びかけ賛同学会を募ることになったとの報告があった。

11. 学会賞選考委員会報告

- ・ 資料 10 に基づいて三木庶務担当理事より報告があり、受賞候補者推薦について書類で審査が進むように留意して応募してほしいとの要望があった。

12. INTECOL 報告

- ・ 資料 11 に基づいて村岡理事より INTECOL が 2022 年 8 月に延期予定となったこと、生態学会からの INTECOL 会費状況、INTECOL 個人会員がなくなったことが報告された。

13. EAFES 報告

- ・ 中野理事より 2020 年フフホト大会が延期となり 2021 年 7 月 10-13 日で予定、大会は中国在住者はオンサイト、日本・韓国からはビデオ録画で参加の方向性、1 月に HP 更新され新しい情報が掲載されるとの報告があった。

審議事項

第 1 号議案 定款改訂について

- ・ 資料 12 に基づいて永松専務理事より定款改定案の説明と提案があり全会一致で承認され、2021 年 3 月総会にて審議されることになった。

第 2 号議案 役員・代議員選任規則改訂について

- ・ 資料 13 に基づいて永松専務理事より郵送選挙廃止に伴う役員・代議員選任規則改訂の説明と提案があり全会一致で承認され、2021 年 3 月総会にて審議されることになった。

第 3 号議案 日本生態学会功労賞について

- ・ 資料 14 に基づいて湯本会長から説明があり高村典子氏を理事会が選定した候補者とするのが全会一致で承認された。

第 4 号議案 委員の承認

- ・ 資料 2 に基づいて陶山編集長より ER 編集幹事・編集委員の提案があり全会一致で承認された。
- ・ 資料 3 に基づいて永光編集長より生態誌編集幹事の提案があり全会一致で承認された。
- ・ 資料 4 に基づいて小池編集長より 2021-2023 年の保全誌編集長・編集幹事・編集委員の提案があり全会一致で承認された。

第 5 号議案 生態誌冊子発行・購読について

- ・ 資料 15 に基づいて永松専務理事より、2021 年以降 300 部程度の発刊となること、生態誌編集委員会から年 2 号発行に変更する提案、保全誌同様に J-stage にて早期公開を行う提案があったとの説明があり、1) 2022 年から冊子印刷費を購読者負担とすることを踏まえての入会及び会費規則改訂を 2021 年 3 月総会に提案すること、2) 2022 年から生態誌を年 2 号発行とする規定改訂を

行うこと、3) 2022年よりJ-stage 早期公開を実施する、という3点の今後の方向性が全会一致で承認された。

第6号議案 ER論文賞受賞者

- ・ ER編集委員会での審査日程の都合で後日メール審議をすることになった。

第7号議案 Jeconetの移管について

- ・ 資料16に基づいて村岡理事より生態学に関わるメーリングリスト「Jeconet」の運営を生態学会のシステムに引き継ぐこと、学会での管理体制を立ち上げることについて説明と提案があり全会一致で承認された。
- ・ 次回理事会にて移行計画と管理体制が提案される予定。

第8号議案 2023年全国大会(ESJ70)開催地・開催日程

- ・ 資料17に基づいて陶山ER編集長(東北地区会員)より東北地区で開催される2023年大会(ESJ70)開催会場を仙台国際センター、日程を2023年3月17日~21日とする提案があり全会一致で承認された。

第9号議案 自然再生エネルギータスクフォースの設置について

- ・ 資料18に基づいて湯本会長よりタスクフォースの目的とゴール・メンバーの説明と提案があり審議し、名称を「再生可能エネルギータスクフォース」として設置することと提案メンバーが全会一致で承認された。

第10号議案 気象庁・生物季節観測の継続を求める要望書

- ・ 資料19に基づいて湯本会長より「気象庁・生物季節観測の継続を求める要望書」案の説明と提案があり生態学会として提出することが全会一致で承認された。

第11号議案 共同利用・共同研究拠点についての第4期中期目標期間における拠点認定継続に関する要望書について

- ・ 資料20に基づいて中野理事と湯本会長より説明があり、要望書依頼について承諾は執行部判断で行う(理事会には情報共有)ことについて全会一致で承認された。

第12号議案 日本生態学会賞の英語名について

- ・ 資料21に基づいて黒川会計担当理事より日本生態学会賞の英語名について説明があり今後は「ESJ Prize」とすることが全会一致で承認された

その他

会員情報および大会参加情報の個人情報管理方法改正について

- ・ 三木庶務担当より改正案検討中との説明があった。

閉会：以上の議事を終え、17時10分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、会長、監事がこれに記名押印する。

2020年12月19日

会 長 : 湯本 貴和 ⑩

監 事 : 陀安 一郎 ⑩

齊藤 隆 ⑩